

庁 議 の 概 要

◎開催日時：令和6年1月12日（金）午前8時25分～午前8時40分

◎概 要：以下のとおり

◎出席者：市長、足立副市長、教育長、水道事業管理者
部長級16人

◆案件・・・5件

* 総務部

◎令和6年能登半島地震災害等への対応について

- ・内 容：令和6年能登半島地震災害等への対応について
- ・担当課：総務部危機管理課

* 企画財政部

◎令和6年3月定例市議会に係る資料等の提出について

- ・内 容：令和6年3月定例市議会に係る資料等の提出について
- ・担当課：企画財政部財政課

* 市民文化部

◎現代美術－茨木50回記念特別企画展の開催について

- ・開催日時：1月14日（日）～1月21日（日）午前10時～午後7時
※最終日は午後5時まで
- ・開催場所：おにクル、阪急駅前茨木ビル「Socio1」
- ・担当課：市民文化部文化振興課
- ・資 料：別紙のとおり

* 福祉部

◎「茨木市総合保健福祉計画（第3次）（案）」に対する庁内意見募集について

- ・内 容：「茨木市総合保健福祉計画（第3次）（案）」に対する庁内意見募集について
- ・担当課：福祉部地域福祉課

* 教育総務部

◎二十歳のつどいの報告について

- ・開催日等：1月8日（月・祝）／おにクル
- ・参加人数：2部合計 2,300人
- ・担当課：教育総務部社会教育振興課

◆特別職発言等特記事項

（福岡市長）

・令和6年能登半島地震災害等への対応について

能登半島地震における特徴の一つとして、被害態様や地理的条件などから、被災地の受援体制、支援の受け入れ体制がぜい弱であることが挙げられます。

例えば、応急危険度判定業務のために本日現地へ向かった職員には、寝袋持参・車中泊が求められています。寒冷地対策も必要であり、支援する側にとっても過酷な環境となっています。

復興にあたっては、現在は冬季のため本格工事が難しく、インフラ復旧も容易ではない状況です。

既に現地から本市へ避難されてきた方がおられますが、現地へ戻るのかやむなく引っ越すのか、その判断にも時間がかかるものと予想されます。避難されてきた方の支援にあたっては、そうした環境にも配慮し、柔軟な対応をよろしくお願いします。

・年始行事について

年賀交歓会、消防出初式、二十歳のつどい、という市主催ないし共催の３つの年始行事を無事に挙行できました。

年賀交歓会、二十歳のつどいは、初のおにクル開催でありましたが、いずれも円滑に運営され、かつ、盛況でした。

消防出初式については、西河原公園という市中心部以外で開催することには一定の意義があると感じています。

関係の皆さん、お疲れさまでした。

50th

現代美術一茨木
50回記念特別企画展

茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」
1階オープンギャラリー
阪急駅前茨木ビル「Socio1」

2024.1.14-21
sun. sun.

行き来
する
かたち

SUBTITLED

FEATURED
過去の特集作家 63名

SINCE 1968

第50回
現代美術一茨木 2023展

茨木市立生涯学習センター
きらめきホール・ホワイエ・1階展示コーナー

2024.1.15-21
mon. sun.



行き来
する
かたち



FEATURED

特集作家：
川口 洋子 / ナミキ・キヨタカ / 丸山 まどか

INDÉPENDANT

アンデパンダン（無審査の公募展）

50th

第50回
現代美術-茨木 2023展

行き来するかたち

現代における新しい表現を模索する作品を、
アンデパンダン(無審査)の「公募部門」と
実行委員会選出の「特集作家部門」で展示します。

2024年1月15日(月)～1月21日(日)
ただし、16日(火)は休館
午前10時～午後7時 ※最終日は午後5時まで

特集作家：川口 洋子 / ナミキ・キヨタカ / 丸山 まどか

特集作家アーティストトーク

日時 | 1月21日(日)午後3時00分～午後4時30分
司会 | 平田剛志(美術批評)
会場 | 茨木市立生涯学習センター きらめき

会場 | MAP 

📍 茨木市立生涯学習センター
きらめきホール・ホワイエ・1階展示コーナー

大阪府茨木市畑田町1-43

JR総持寺駅：西へ約1.2km

JR茨木駅：北へ約1.5km / 阪急茨木市駅：北西へ約2km

バスでお越しの方：JR茨木駅・阪急茨木市駅から、
「中央図書館前」下車すぐ

「行き来するかたち」

1968年から始まった「現代美術-茨木」は第50回を迎える。今回の特集作家は第48回、第49回展の観客投票で上位だった川口洋子、ナミキ・キヨタカ、丸山まどかの3名である。

展覧会テーマは、「行き来するかたち」と題された。美術作品の「かたち」とは、生き物のように変わる。作家が作品を作る過程でかたちは変容し、鑑賞者や場所、時代によって見え方が変わる。美術作品とは揺らぎと多様性が含まれた「行き来するかたち」なのだ。

川口洋子は、絵画や映像、インスタレーションなど、自身の記憶と経験、場の状況を溶け合わせた作風が特徴だ。日常の隙間にそっと美術を忍び込ませる展示は、思いもよらなかった「かたち」を発見させる。

膨大な数の展覧会を見て回るギャラリーメグリストでもあるナミキ・キヨタカは、服用済み錠剤の包装シートや収集した展覧会

公募部門(アンデパンダン)

搬入 | 1月14日(日)午後1時～午後5時
会場に直接搬入・展示(要事前申込)

搬出 | 1月21日(日)午後5時～午後7時
出品料 | 1,000円

公募展への参加をご希望の方は、
右記QRコードの市ホームページから申込、または
「募集要項」裏面の出品申込書を郵送(問合せ先住所あて)。

申込期間：12月10日(日)まで

出品規定など詳しくは別紙「募集要項」
またはホームページまで。



フライヤーやDMなど、大量の日用品を使った立体やインスタレーションを制作する。ナミキの作品とは、見ることで作る、生活と芸術、毎日の繰り返しと積み重ねを行き来して生まれる産物だ。

丸山まどかは、第48回展でモニターに生物や植物のような「かたち」が浮かぶCG作品を出品した。今展では作品に何も付随させたくないという作家の希望により、3DCG作品ということしかわからない。事前情報なく自身の眼と思考で作品を見ると、どんな「かたち」を想像／創造するだろうか。

今展は全員がアンデパンダン公募部門の出品経験者であり、会場や展覧会の特性をもっとも体現している作家たちである。展覧会の場で、どんな「かたち」が現われるのか。作品の前に行き来し、それぞれの「かたち」の前で立ち止まりたい。

平田剛志

行き来 する かたち

INDÉPENDANT



「(しゃもじに) 落ちたかげをなぞる」 2023年 しゃもじに色鉛筆、カラーペン、鉛筆、アクリル絵具 442×110mm 撮影：寺岡海

WEBサイト



「HAPPY?」 2017年 ビニール傘、PHPシート、スパンコール 他 700×700×900mm

ブログ「シッタカブリアンの午睡」



Yoko KAWAGUCHI 川口 洋子

1990年 大阪生まれ

2012年 京都嵯峨芸術大学短期大学部専攻科美術専攻洋画コース卒業

2013年 京都嵯峨芸術大学附属芸術文化研究所研究科を修了

草木の揺れやアスファルトに詰まった小石、知っている人の中の知らなかったところやいつもその時だけの姿で広がる空など、何気なくあるように思っていた身のまわりに、溢れるばかりのものが思いもよらなかったかたちでいつもあり続けていることに驚きます。そこにあるものを少しでも知るように、絵の中に少しでもあるように作りたいと思っています。

茨木市の生涯学習センターの建物の中や外を歩いてみると、心にとまる場所がいくつかありました。私の立っているところから見つけたものを、作品を作る時と同じように大切なものがあるようにその場所に置きたいと思います。そこに見つけるもの、誰かが見つけたこと、それを通してつながるものに心を向けられたらと思います。

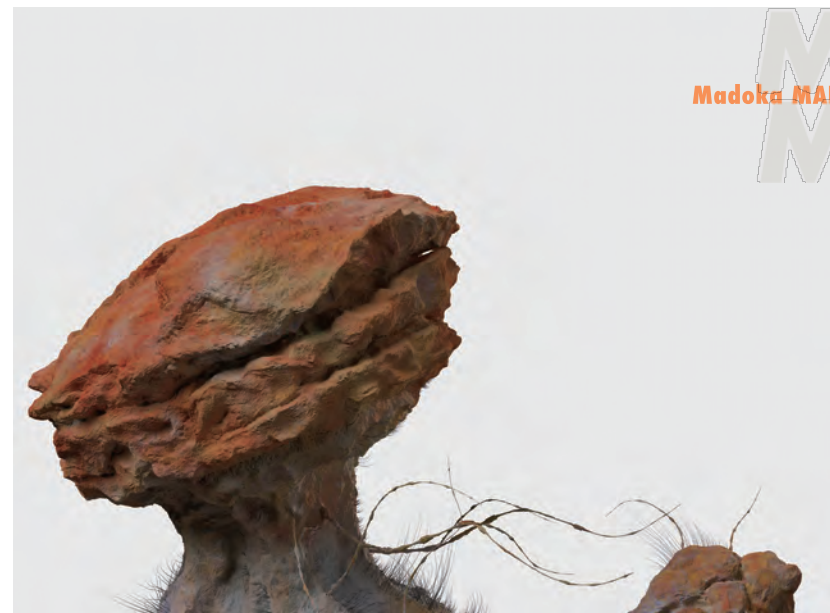
Kiyotaka NAMIKI ナミキ・キヨタカ

1954年 東京生まれ。

グラフィックデザインを生業として約30年。現在ほぼフルタイムなケアワーカー。自転車を駆ってのギャラリー行脚は20年。自称ギャラリーメグリストの嫉妬と憧憬は作品“のようなもの”を公募に出すという暴挙へと至り、フルタイム勤務の傍らとにかく切ったり貼ったりしている。

ノープラン、ノーコンセプトな作品づくりをモットーにフルタイム勤務の傍ら寸暇を惜しんで切ったり貼ったりを日常とする。今回はステージ上での展示ならではの作品とレイアウトを考えた。ステージ上でヘンテコに僕なりの形が行き交ったら面白いのでは、と。

Madoka MARUYAMA 丸山 まどか



「無題」 2022年 3DCG



「無題」 2021年 3DCG

HISTORY

第1回 ● 1968

茨木市美術展
B部門（前衛美術）として設立、開催

- 1969 ● 茨木市美術展B部門・現代美術展として実施
- 1970 ● 茨木アンデパンダン、版画ビエンナーレ開催
- 1971 ● 名称が「茨木現代美術展」となる／テーマ「水」
- 1973 ● 茨木アンデパンダン、版画ビエンナーレ開催

第4回 ● 1974

茨木現代美術展開催／テーマ「紙」
「フィルム・エキジビション・イバラキ'74」併催

- 1975 ● 茨木アンデパンダン、版画ビエンナーレ開催
- 1976 ● 茨木現代美術展開催
茨木市在住者に限定する
- 1977 ● 茨木アンデパンダン版画展開催
- 1978 ● 茨木現代美術展開催
- 1979 ● 茨木アンデパンダン版画展開催
- 1980 ● 茨木アンデパンダン展開催
ビエンナーレで交互に実施していた
版画展・現代美術展を統合

第8回 ● 1981

茨木市在住の4作家による
初の「特集作家展」開催
特集作家 | 今井梅男・井上直久・
中島一平・野村正則

- 1982 ● 公募部門が併設される
特集作家 | 篠原猛史・今村 源
- 1983 ● 特集作家 | 小松沙鬼・森 公一・渡辺マサイ
- 1984 ● 特集作家 | 池田丈一・堀尾貞治・松阪由起
- 1985 ● 特集作家 | 実験工房Gòut・金井正夫
- 1986 ● 特集作家 | 岩本宇司・大久保英治・小林陸一郎
- 1987 ● 特集作家 | 金谷敬和・馬場草香・宮川哲弥
- 1988 ● 特集作家 | 大成由子・中澤テルユキ

第16回 ● 1989

名称が「現代美術ー茨木」となる
特集作家 | 志村昌弘・中前寛文・
広中 徹・ヤノベケンジ

- 1990 ● 特集作家 | 中條明夫・中西圭子・藤原みどり
- 1991 ● 特集作家 | 岡田武志・藤田昌宏・藤原昌樹
- 1992 ● 特集作家 | 北口博章・下尾崎純・藤原和子
- 1993 ● 特集作家 | 高瀬義夫・林 幸久

※現代美術展として開催したものを回数に数えています。

- 1994 ● 特集作家 | 江村耕市・古川幸一・フルタミチエ
- 1995 ● 特集作家 | 小島正照・田中哲子・並河富美代
- 1996 ● 特集作家 | 浅見裕一・渋谷信之・福本浩子
- 1997 ● 特集作家 | 雨森一彦・櫻井裕美・中島 隆
- 1998 ● 特集作家 | 川村仁志・つき山いくよ・山本和子
- 1999 ● 特集作家 | 高山敦子・浜地憲章・ヒグチコオジ
- 2000 ● 特集作家 | 生田謙一郎・池上純子・山本まゆみ
- 2001 ● 特集作家 | 神川 香・山田孝仁・山田真理子
- 2002 ● 特集作家 | 大城国夫・齊藤秀樹・善住芳枝・小谷彰宏

第30回 ● 2003

30回記念として岡 普司を招待
特集作家 | 辻並啓子・山本有子

- 2004 ● 特集作家 | 上根拓馬・磯川麻里
- 2005 ● 特集作家 | 春成こみち・嶋上敏幸
- 2006 ● 特集作家 | 澤田周平・上田章子・久下典子
- 2007 ● 特集作家 | 池田博子・中島順子・前土井里枝
- 2008 ● 特集作家 | 竹村雪子・びりか・若林節子
- 2009 ● ※新型インフルエンザ対策により中止
- 2010 ● 特集作家 | 稲垣元則・今村 源・コダマヤスシ・ 福本浩子
- 2011 ● 特集作家 | 今村遼佑・浜本隆司・峰本克子
- 2012 ● 特集作家 | 土師清治・まつもとやすこ・山本修司

第40回 ● 2013 「記憶と反復から」

サブタイトルを設けることとなる
特集作家 | 杉本晋一・高田靖子・馬場草香

- 2014 ● 特集作家 | 岸本恵美子・中澤てるゆき・藤原正和
- 2015 ● 特集作家 | 梅谷脩・しまだそう・山城優摩
- 2016 ● 特集作家 | 亜鶴・上野秀明・内藤伸彦
- 2017 ● 特集作家 | 奈良田晃治・藤田昌宏・吉村昌子
- 2018 ● 特集作家 | 窪田 順・仲摩洋一・松本誠史
- 2019 ● 特集作家 | 上田 良・大前春菜・保田 篤
- 2020 ● ※新型コロナウイルス感染症対策により中止
- 2021 ● 特集作家 | ATSUSHI SHIBATA・中屋敷智生・長谷川一郎
- 2022 ● 特集作家 | 葛本康彰・田中加織・安枝知美・わにぶちみき

第50回 ● 2023 「行き来するかたち」

特集作家 | 川口洋子・ナミキ・キヨタカ・丸山まどか
50回記念特別企画展 併催

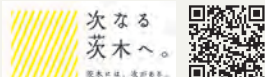
無審査・無賞・自由出品を原則とするアンデパンダン方式を軸とした、
市内外の多くの表現者が毎年参加する自発的な展覧会です。



開場時間 10am~7pm (最終日5pmまで)	2024年1月 January	14日 Sun.	15日 Mon.	16日 Tue.	17日 Wed.	18日 Thu.	19日 Fri.	20日 Sat.	21日 Sun.
K 第50回 現代美術ー茨木2023展 📍茨木市立生涯学習センター きらめき				休 Closed					3pm~ 4:30pm Art Talk
A 50回記念特別企画展 📍茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」								2pm~ 3:30pm Art Talk	11am~ 12:30am Art Talk
B 50回記念特別企画展 📍Socio1									

その他、関連イベントの開催情報はQRコードからご確認ください。

主 催 | 茨木現代美術展実行委員会（茨木市・茨木現代美術の会）
問合せ先 | 茨木市市民文化部文化振興課
〒567-8505 茨木市駅前3丁目8-13 TEL: 072-620-1810 FAX: 072-622-7202



周辺アート情報

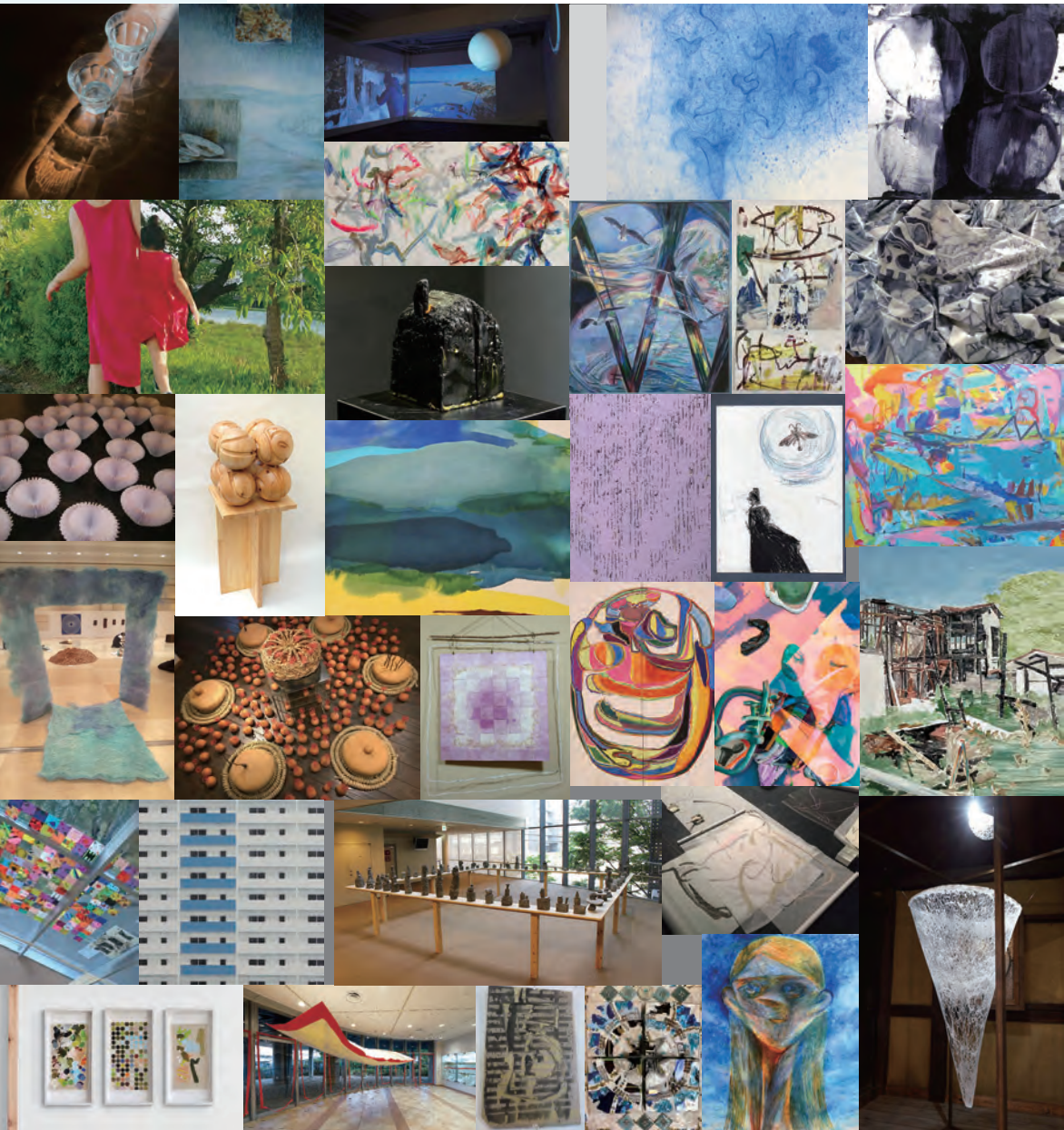
real SOU #12
「SOU」のほんもの作品展
MODERN TIMES

SOU-JR総持寺駅アートプロジェクトで
大型プリントにして紹介している作品の
実作品を展示するとともに、各作家の
周辺作品も合わせて展示します。

展示作家
二井貞信、福村惣太夫
中原安見子、浅木久輝

2024年1月17日(水)ー1月21日(日)
12:00ー19:00
GLAN FABRIQUE
(カフェ百花・lagalerie)
茨木市駅前1-8-28





現代美術-茨木 50回記念特別企画展

行き来するかたち

開催50回を記念して、「現代美術-茨木」特集作家
経験者有志の作品を展示します。

2024年1月14日(日)～1月21日(日)
午前10時～午後7時 ※最終日は午後5時まで

トークイベント「現代美術-茨木展を振り返る」

日 時 | 1月20日(土) 午後2時00分～午後3時30分
登壇者 | 出品作家 会 場 | 「おにクル」

参加作家によるアーティストトーク

日 時 | 1月21日(日) 午前11時00分～午前12時30分
登壇者 | 出品作家 会 場 | 「おにクル」

会 場 | MAP **A** **B**

📍 茨木市文化・子育て複合施設「おにクル」
1階オープンギャラリー

大阪府茨木市駅前3丁目9-45

JR茨木駅：東へ徒歩約10分／阪急茨木市駅：西へ徒歩約10分
阪急・京阪バス：「市役所前」下車すぐ

📍 阪急駅前茨木ビル「Socio1」

大阪府茨木市永代町5-5 阪急茨木市駅直結

「ア」ンデパンダン・コレクティブ

1968年に茨木市美術展の一部門として始まった「現代美術-茨木」は本展で50回を迎える。1970年に現代につながる無審査・自由出品によるアンデパンダン形式の公募展を併設し、1980年に現代美術展として統合された。1981年からは現代作家を招聘した特集作家部門が設けられ、毎年数多くの作家を輩出してきた。この度、50回を記念して過去の特集作家のなかから63名が出品する特別企画展が開催される。

会場は、茨木市役所前に2023年11月にオープンする複合施設「おにクル」と茨木市駅前に1970年に建設されたSocio(ソシオ)の2会場である。建築家伊東豊雄の設計によるおにクルでは、天井高5メートルの吹き抜けのエントラスに展示される。Socioでは元銀行や住宅展示場の店舗跡が残る1～3階に、稲垣元則と藤本聖美によるアートプロジェクトユニット「One Art Project」のディレクションによって構成され、新旧2つの会場による違いが見どころである。

かつてアンデパンダン展は、体制的な美術界に対して自由を掲げた「反芸術」が特徴だったが、それは「反キュレーション」とも言えるだろう。本展でもキュレーターはおらず、出品作品の選定や展示は作家に任されている。展覧会にどんな作品が出品されるのか設営まで誰にもわからない。それにも関わらず、アンデパンダン展は展覧会として成立してきた。その力学はどこにあるのか。

現在ではアンデパンダン展は使命を終えたとする見方もあるが、インターネットやアートコレクティブのように流動的、自律的、協働的に場を生成するコミュニティとして捉えることはできないだろうか。かつての特集作家たちが再び集合し、いま何を見せるのか。未来の「現代美術-茨木」はここから始まる。

平田剛志

阪急駅前茨木ビル「Socio1」

📍 会 場 | MAP **B**

- | | | |
|--------------------------------------|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 1 池田 丈一(1984)
Joichi Ikeda | 13 山田 孝仁(2001)
Takayoshi Yamada | 25 上野 秀明(2016)
Hideaki Ueno |
| 2 馬場 草香(1987)
Kusaka Banba | 14 辻並 啓子(2003)
Keiko Tsujinami | 26 奈良田 晃治(2017)
Koji Narada |
| 3 中澤 てるゆき(1988)
Teruyuki Nakazawa | 15 山本 有子(2003)
Yuko Yamamoto | 27 窪田 順(2018)
Jun Kubota |
| 4 中前 寛文(1989)
Hirofumi Nakamae | 16 春成 こみち(2005)
Komichi Harunari | 28 松本 誠史(2018)
Seiji Matsumoto |
| 5 中西 圭子(1990)
Tamaco Nakanishi | 17 上田 章子(2006)
Akiko Ueda | 29 上田 良(2019)
Yaya Ueda |
| 6 藤原 和子(1992)
Kazuko Fujiwara | 18 久下 典子(2006)
Noriko Kuge | 30 保田 篤(2019)
Atsushi Yasuda |
| 7 江村 耕市(1994)
Koichi Emura | 19 中島 順子(2007)
Yoriko Nakajima | 31 長谷川 一郎(2021)
Ichirou Hasegawa |
| 8 フルタ ミチエ(1994)
Michie Furuta | 20 若林 節子(2008)
Setsuko Wakabayashi | 32 葛本 康彰(2022)
Yasuaki Kudzumoto |
| 9 渋谷 信之(1996)
Nobuyuki Shibuya | 21 土師 清治(2012)
Kiyoharu Haji | 33 安枝 知美(2022)
Tomomi Yasueda |
| 10 福本 浩子(1996)
Hiroko Fukumoto | 22 杉本 晋一(2013)
Shinichi Sugimoto | 34 わにぶち みき(2022)
Miki Wanibuchi |
| 11 浜地 憲章(1999)
Kensho Hamaji | 23 岸本 恵美子(2014)
Emiko Kishimoto | |
| 12 生田 謙一郎(2000)
Kenichiro Ikuta | 24 梅谷 脩(2015)
Osamu Umetani | |

()内は「現代美術-茨木」参加年。

茨木市文化・子育て複合施設 「おにクル」1階オープンギャラリー

📍 会 場 | MAP **A**

- | | | |
|--|---------------------------------------|---|
| 1 井上 直久(1981)
Naohisa Inoue | 12 高山 敦子(1999)
Atsuko Takayama | 23 内藤 伸彦(2016)
Nobuhiko Naito |
| 2 中島 一平(1981)
Ippey Nakajima | 13 山本 まゆみ(2000)
Mayumi Yamamoto | 24 吉村 昌子(2017)
Masako Yoshimura |
| 3 堀尾 貞治(1984)
Sadaharu Horio | 14 善住 芳枝(2002)
Yoshie Zenju | 25 仲摩 洋一(2018)
Yoichi Nakama |
| 4 金井 正夫(1985)
Masao Kanai | 15 池田 博子(2007)
Hiroko Ikeda | 26 大前 春菜(2019)
Haruna Omae |
| 5 小林 陸一郎(1986)
Rikuichiro Kobayashi | 16 コダマ ヤスシ(2010)
Yasushi Kodama | 27 中屋敷 智生(2021)
Tomonari Nakayashiki |
| 6 志村 昌弘(1989)
Masahiro Shimura | 17 浜本 隆司(2011)
Takashi Hamamoto | 28 ATSUSHI SHIBATA(2021)
Atsushi Shibata |
| 7 藤原 みどり(1990)
Midori Fujiwara | 18 峰本 克子(2011)
Katsuko Minemoto | 29 田中 加織(2022)
Kaori Tanaka |
| 8 藤田 昌宏(1991)
Masahiro Fujita | 19 まつもと やすこ(2012)
Yasuko Matsumoto | |
| 9 藤原 昌樹(1991)
Masaki Fujiwara | 20 高田 靖子(2013)
Yasuko Takada | |
| 10 林 宰久(1993)
Tadahisa Hayashi | 21 しまだそう(2015)
So Shimada | |
| 11 並河 富美代(1995)
Fumiyo Namikawa | 22 山城 優摩(2015)
Yuma Yamashiro | |

()内は「現代美術-茨木」参加年。